

サマーヒル・スクール 体験教育 教科横断型 (世界で一番自由な学校)

(Summerhill school) は、1921年ドイツのドレスデン近郊のヘルナウでA・S・ニールにより創立された学校である。翌年、学校はイギリスに移された。現在では、イングランドのサフォーク州のレイストンに居を移し寄宿学校、及び全日制の学校として初等中等教育を民主的なスタイルで提供している。最も古いフリースクールと言われ、世界各地のフリースクールの設立の際、モデルとなった。現在の運営者は、ニールの娘、ゾーイ・レッドヘッドである。



サマーヒル・スクールは、「子どもたちは強制よりも自由を与えることで最もよく学ぶ」という哲学により、大きな影響を世界の進歩主義の教育に影響を与えた学校として知られている。すべての授業が選択で、生徒たちは自分たちの時間で何をするのも本人の自由に任されている。ニールは、「子どもの役目は彼自身の人生を生きることであり、心配性な親が、彼はこんなふうに生きるべきと考えた人生を生きることでもなければ、自分が一番よくものを知っていると思い込んでいる教育者の目的にかなった人生を生きることでもない」という信念のもとにこの学校を創設した。ここから、「世界で一番自由な学校」と呼ばれたり、反権威主義教育の代表とも言われたりする。

日本におけるサマーヒル教育について

「学校法人きのくに子どもの村学園」は、1992年、和歌山県橋本市でスタートしました。戦後はじめて学校法人として認可された自由な学校です。現在は、きのくに子どもの村小中学校、かつやま子どもの村小中学校（福井県）、南アルプス子どもの村小中学校（山梨県）、北九州子どもの村小中学校（福岡県）、きのくに国際高等専修学校（和歌山県）があり、約600人の子どもたちが寮生活を送りながら学んでいます。

時限	時間	月	火	水	木	金
	8:55~9:05					
1	9:10	登校	ユースフルワーク			
	~ 10:40		基礎学習	プロジェクト	基礎学習	123年 国際 基礎 基礎 国際
	10:40~11:00					
2	11:00	自由選択	ティータイム			456年 基礎 英語
	~ 12:30		プロジェクト	プロジェクト	プロジェクト	自由選択
	12:30~13:30					
3	13:30	プロジェクト	おひるやすみ			
	~ 15:00		プロジェクト 基礎学習 英語	プロジェクト	自由選択	
4	15:00~15:45		全校ミーティング			



サマーヒル・スクール 体験教育 教科横断型 (世界で一番自由な学校)

体験教育・教科横断型=プロジェクト教育

「プロジェクト」と主な学習の展開 — 2016年度「工務店クラス」(教員)

テーマ	主な活動	「小学校学習指導要領」と			
		国語	算数	社会	理科
コテージの新築 (スコットランド)	ミーティング(企画) 説明、模型作り 用材の準備 「きざみ」 棟上げ 内装 最終点検 完成パーティ 世界の住まい調べ 原稿書き 博物館めぐり 旅行 ホームセンター見学	話す・聞く(1~6)、量と単位(1~6)、説明文を読む(1~6)、文を書く・記録する(1~6)	四則計算(1~6)、量と単位(1~6)、图形(三角形、四角形、ひし形、1~6)、面積(4~6)、角度(5~6)、拡大縮小(6)、平均と単位量(5)、比の計算(6)、対称图形(6)、角柱・円柱(6)	暮らしの移り変わり(3)、気候とくらし(5)、いろいろな国や地方の暮らし(5~6)、日本と世界の歴史(5~6)、地図に親しむ(4~)、国土と地形(3~5)、都道府県(4~6)、気候とくらし(5)、いろいろな生活と道具(3~4)	時差・地図・天体(6)、この原理(6)、季節の変化、電流と電気(8)、いろいろな地域の気候(8)
喫茶店の建て替え (きのくに)					
木工 おもちゃ作り	椅子などの家具 生活小物、人形 オルゴール、 電池おもちゃ等		四則計算(1~6)、いろいろな图形(1~6)、単位と量(1~6)、拡大縮小(6)、対称图形(6)	暮らしと道具(2~5)	電球・電池・磁石・電気(3~6) おもちゃ作り(2)
料理	喫茶店の経営 日本と世界の食事 山菜料理	いろいろな言い回し・ことわざ(1~6)	四則計算(1~6)、量と単位(1~6)	食品・栄養・生活習慣(5~6)	食品・栄養・生活習慣(5~6)、物と重さ・体積(3)、物質の変化(5)



基本原則 Basic Principles

- 教師中心主義 Teacher centered → 子どもの自己決定 Children's initiative
- 画一主義 Uniform education → 個性化 Respect of individuality
- 書物中心主義 Book centered → 体験学習 Learning by doing

自由な子ども FREE CHILD

- 自由な感情 Free Emotions
 - 自由な知性 Free Intellect
 - 自由な人間関係 Free Relations
- 情緒の安定、自信、生きる喜びなど
emotional security, self-esteem, joy of living etc
- 知的好奇心、創造的思考など
burning curiosity, creative thinking, many-sided interest etc
- 自立心、人間関係の術など
independence, arts of communication, etc

創造的な思考の5局面 (デューイ)

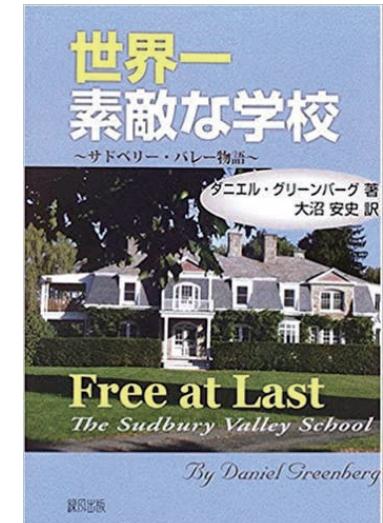
1. 問題の感知 Sense of a Problem
2. 問題の観察 Observation of the Problem
3. 仮説の暗示 Suggestion of the Hypotheses
4. 結論の推敲 Elaboration of a Conclusion
5. 行動による検証 Active Testing

サドベリー教育 退屈のプールにつける 自由と責任 (世界一素敵な学校)

サドベリー教育とは、1960年代にアメリカで生まれたサドベリー・バー・スクールの教育理念を指す。その理念を受け継ぐ学校はサドベリースクールと呼ばれ、「学びたいと感じれば自ら学ぶ」という考え方のもと、一般的な学校とは大きく異なる子どもの個性や自主性をとことん重視した学びの場を提供している。

例えばサドベリースクールでは、授業や時間割、テストをはじめ、学年やクラスという概念もないのが一般的で、さまざまな年齢の子どもたちが一緒に過ごし、決められたカリキュラムではなく、それぞれに興味を持ったことをして自由に過ごすのも大きな特徴。

さらに従来の学校には不可欠な「先生」もいない。生徒を助けたり、問われたことを教えたり、学校運営のための活動を行うスタッフと呼ばれる大人はいるが、その採用の可否は生徒とスタッフの話し合いにより決められている。



退屈のプールにつける

「好きなことをやっていい」と言われて子どもが喜ぶのは初めのうちだけ。際限ない自由な環境に置かれると、しだいにやることがなくなって退屈し始める。そして、「自分は何がしたいのか」「何をすべきなのか」というテーマと向き合わざるをえなくなる。この「退屈のプール」の期間を経て、子どもは真の学びに目覚めていく。

自由と責任

「世界一素敵な学校」はスクールの創設者であるダニエル・グリーンバーグさんが書いた本の名前です。ダニエルさんの教育理念は、「子どもは学びたくなったらときに、いちばんよく学ぶ」。子どもには生まれながらに好奇心があり、本能的に自分で学びたくなる力を持っている。大人が教えたり、意図的に導いたりすることは、かえって子どもの学ぶ力を奪うことになると。だから、この学校では子どもに対して「教える」ということを一切しない。

サドベリー教育をベースにしたホームスクールの一例



毎日3時間ほど、学校に行かないで半年以上スライム作りに没頭していたら作った後のスライムの中に「腐るスライム」を見出し、なぜスライムが腐ったのか、何を混ぜたのかを調べていったら、成分(グリセリン、LPG、TEA、パルミチン酸ステアリン酸、ミリスチン酸など)に興味を持ち始め化学式を書き始めた。(小学5年時)

Wikipediaで成分を調べ始めて元素にも興味を持ち始めた。

